

1

NPO法人設立に至るまでの流れ

NPO法人設立以前「アイセルカレッジ倶楽部」(2004年3月まで)

1995年秋、静岡市は女性の人材育成を目的とした「アイセル女性カレッジ」(以下カレッジ)を開講した。この講座は1年間の通年講座で、修了時にはレポート提出が課題がとなっている。現在までに6期が修了し、延べ105人の修了生がいる。

2001年に開講した5期カレッジでは、初めてテーマを「女性労働」に特化して、企画公募をした。3人の企画委員を中心にカリキュラムを設定。半年の座学の後、受講生によって非正規労働に従事している女性500人にアンケート調査を実施した。調査票の設計、集計、結果分析、提言をまとめ、調査研究報告書を作成した。個人レポートでなく、共同で1冊の報告書をまとめるのはカレッジでは初めての取り組みだった。最後まで取り組んだ仲間に強い連帯感が生まれ、修了後、自主活動グループ「アイセルカレッジ倶楽部」が生まれた。

2003年8月、「アイセルカレッジ倶楽部」は、ヌエック(国立女性教育会館)の女性学・ジェンダー研究フォーラムに参加。「これでいいの?私たちの働き方」と題するWSを開催した。また、静岡市内の女子高校生を対象にした「知りたい仕事」アンケート調査を実施。その結果をもとに2003年10月から2004年1月まで静岡市女性会館を会場に「職業観育成連続講座 女性と仕事トークセミナー(全3回)」を企画・運営した。

女性会館企画運営研究会呼び掛け人ミーティング(2004年3月~4月)

2004年3月5日、静岡市女性会館を活動拠点にしている団体や個人に会館から声が掛かり、市民意見を聴くミーティングが行われた。

1992年にオープンした静岡市女性会館はこれまで、一部業務を除き、公設公営の直営方式で市職員によって運営されていた。しかし、地方分権に伴う行政改革の流れのなか、地方自治法の一部が改正され、市の公営施設について指定管理者制度導入の検討が始まった。女性会館でも、その前段として、女性会館の民間(NPOも含む)委託化の検討を始めたようだ。そのため、市民意見を聴くミーティングを実施することになったと思われる。「アイセルカレッジ倶楽部」からは松下と森が呼ばれた。

ゆとり研究所代表の野口智子さんのコーディネートで行政職員も交えたミーティングが行われた。ミーティングに呼ばれた9人の市民からは「女性会館の今後については、一部の人の意見を聴くだけでなく、ここを利用しているより多くの人に呼び掛け皆で一緒に考

えた方がいい」という意見が出た。その意見に賛同する者が多く、今後はその場に呼ばれていた市民のうち有志 7 人が呼び掛け人になって、研究会を立ち上げていくことになった（以後、この市民を「呼び掛け人」とする）

第 1 回のミーティング後、松下は若い森が会館の民営化を見据えた業務委託の方向を女性の仕事起こしとして前向きにとらえていることを知り、一緒にその可能性を探ってみようと思えるようになった。

女性会館企画運営研究会第 1～5 回（2004 年 5～9 月）

第 1 回目の「女性会館企画運営研究会」開催は 5 月 29 日に決まった。チラシを作成し、静岡市女性会館と呼び掛け人が協力して、市民に参加を呼び掛けた。第 1 回には、約 30 名が参加。講師には、松下の推薦と交渉により、名古屋市男女平等参画推進センターの管理を 2003 年 6 月から受託している「つながれと NAGOYA 協働運営 NPO 室」コーディネーターの渋谷典子さんを招いた。こうして第 1 回は渋谷典子さんから名古屋の先行事例について話を聞いた。

第 2 回は静岡市女性会館の館内を見学した後、相談事業を担っておられるフェミニストカウンセラーの大石佳代子さんの話を聴き、静岡市女性会館の現状について学んだ。

第 3 回は 7 月 24 日に名古屋市男女平等参画推進センターで行われた「女性と女性センター～当事者の視点で考える拠点施設～」に参加した会館職員の報告を聞いた。また、その当時、他県に行くときは、その土地の女性センターを訪ねるようにしていた松下からも、財団方式での運営している福岡市の「アミカス」、北九州市の「ムーブ」、京都の「ウイングス京都」の見学報告や資料の紹介があった。各報告の後、講座企画の WS を行った。

第 4 回は静岡市内で活躍する NPO 代表や会社経営者の女性 4 人から、マネジメントについて話を聴き、質疑応答を行った。

第 5 回にはこれまでの参加者がフリートークをし、毎月 1 回行われていた研究会はいったん終了することになった。広く参加を呼び掛けた意義はあったが、参加者の参加動機もばらばらで、参加者の出入りも多かった。各回の前後に行われた呼び掛け人のミーティングでも、今後、このような学習を続けていても、ここから新しい担い手になるグループは育たないのではないかという意見も多かった。

受託を見据え、NPO 法人化を検討（2004 年 9 月～10 月）

全 5 回の「女性会館企画運営研究会」には「アイセルカレッジ倶楽部」のメンバーは出来るだけ参加したが、その内容を物足りなく思う者が多かった。そのため、「女性会館企画運営研究会」終了後、民間委託や指定管理者制度について自主勉強会を立ち上げることにした。「アイセルカレッジ倶楽部」から朝比奈、本多、山本、森、松下の 5 人、新しい仲間としてカレッジ 4 期生で研究会の呼び掛け人でもあった谷口と、女性会館の保育スタッフ有志で「保育支援グループすわん」を立ち上げ代表として活動していた萩原が加わった。また、開講中のカレッジ 6 期生から井上が参加することになった。

新しい仲間の加わった勉強会のスタートと同時に、このグループをNPO法人化することも検討し始めた。県のNPO室や市のNPO推進室に森と松下が相談に出向いた。いずれも、法人化すれば会計や報告など事務処理しなくてはならないことが多くなり、従来の活動だけなら見合わせた方がいいとアドバイスを受けた。しかし、行政の業務委託を受けたり、規模の大きい仕事を請けるならば、法人化は有利だろうということであった。

メンバーの話し合いのなかでは、このグループを法人化して、もっと活動を広げようという方向に傾きつつあった。各自、NPO法人化についても勉強を重ね、とりわけ森は独学で、定款案の作成をこつこつと進めた。

NPO法人設立申請まで(2004年11月)

「女性会館企画運営研究会」では、静岡市女性会館が講座の一部委託に加え、図書コーナーの貸出業務も委託に出すか検討していることがわかった。講座と情報機能の図書が一緒に委託されれば、市民に提供出来るサービスや自分たちがやりたい仕事も広がる。図書コーナー業務の受託を検討するために、松下が学校司書の松永を勉強会に誘った。さらに司書の狩野、遠藤、石割の3人が加わり、12人で勉強会を進めることになった。

第1回勉強会では女性会館設立当時の話を当時の行政担当者からお聴きした。その頃には、ついにNPO法人化を決め、申請書類の準備に入り、森が書類作りを一手に引き受けた。松下は仲間以外の理事として、これまでの活動でこれと思った方々に就任をお願いにまわった。私たちの活動を支援してくださる10人の理事が決まり、メンバーから4人がさらに理事、幹事となり役員に加わった。

11月23日に、設立総会を行い、29日にはNPO設立認証の申請書等を県に提出した。

NPO設立登記と審査まで(2004年12月~3月)

2回目の自主勉強会は、快く理事も引き受けていただくこととなった「しずおか女性の会」会長の杉山佳代子さんと「トモエ文庫」主宰の草谷桂子さんに、女性会館設立当時の市民側からの話をお聴きした。おふたりは、長く地域活動に取り組んでおられ、私たちの活動を心から励ましてくださった。女性会館から委託について具体的な説明を受けた4回目以降の勉強会は、審査に提出する企画を分担し、案を持ち寄っては検討を重ねた。

2月23日、NPO法人としての認証式に松下、森が出席。無事、認証された。登記日は法人の誕生日だと聞いて、誰もが覚えていられるように「ひな祭り」の3月3日を選んだ。森は法務局で3月3日、無事、設立登記を済ませた。

2月末日、松下はこれまでの職場を退職。「つながれっとNAGOYA協働運営NPO室」で約1週間、職場研修。静岡ではメンバーが審査に向かって、本格的に準備を進めた。

(松下光恵)

2

審査の流れ

第6回企画運営研究会（1月29日）

審査について明らかになったのは2005年1月29日の女性会館の第6回企画運営研究会だった。女性会館の講座開設業務の一部と図書貸出等業務を委託に出すということ、その見積もりに参加できるのは「企画運営研究会に参加した実績を持つ団体又は参加した実績を有する個人を構成員に含む団体」かつ「公益法人、特定非営利活動法人又は一定の要件を満たす非営利の団体」という条件が提示された。市議会の議決前のため、応募要項などは紙面で出すことができないということで、パソコンの画面をプロジェクターで写し、それを元に口頭で説明するといった形だった。

見積参加候補者審査に参加する場合は、市議会の期間が終了した3月12日に開催される説明会に参加することが指示された。そして、審査に参加する場合は2月15日までに女性会館に所定の書類を届けるように指示された。

2月8日に代表の松下が見積参加候補者審査の説明会参加の申し込みに行った。企画運営研究会の段階では、いくつか受託を考えている団体があったようだが、結局、見積参加候補者審査の説明会に申込をしたのは1団体だけだった。

見積参加候補者審査参加者募集の説明会（3月12日）

3月12日の説明会では、1月29日にプロジェクター画面上に示された書類が印刷物で配布された。見積参加候補者審査のために提出する書類の書式と、具体的な金額（上限の金額）も示された。説明会には男女共同参画フォーラムしずおかのメンバーのほとんどが集まり、各自質問をすることができた。質問には紙面で回答をもらうほうが後のためによいということで、この日に出た質問を文書にし、女性会館側に提出して回答を確認した。

見積参加候補者審査の応募書類提出まで（3月17日）

説明会の後、5日間で提出書類をそろえなければならず、時間がなかった。講座企画については1月29日の説明のあと、メンバーで企画案を出し合って4回の全体会議を重ね、会議のあとには膨大なメールのやり取りをし、各グループで会合を持ち、企画を作りあげていた。最終的には倍以上の数の企画案ができていた。

それらの企画案から、取捨選択し体裁を整える作業があった。最終的には代表の松下が、全体のバランスをみて今回提出する企画案を絞り最終的な形式を整えた。そして、企画案以外の書類も主に松下が作成した。経費の積算については副代表の本多が請け負ったが、

インフルエンザでダウン。急遽、森があとを引き継いだ。

図書関連について、女性会館の「図書コーナー」としての制約と利点を基に、どういった運営が望まれるかということについて議論した。図書館について活動をしているさまざまな方たちに力を借りながら、自分たちの図書コーナーが目指すものについて考えた。図書コーナーに関する書類は、図書コーナーリーダーの松永と松下が執筆した。

3月17日の提出期限。松下と松永は徹夜で書類を書き上げ、5時の提出期限に間に合わせた。書類はファイルに綴じて7部提出することになっており、徹夜明けの松下と松永、山本、狩野が、印刷して提出することができた。ぱらつく雨の中、印刷作業していたNPOセンターから女性会館まで、バイクで10分の道のりを、徹夜明けの松永が提出に行った。

プレゼンテーションの練習(3月18日、19日)

提出し終わって息つく暇もなく、20日の審査会(公開)に向け、プレゼンテーションとヒアリングの準備に取り掛かった。プレゼンテーションの発表者は森に決まった。森はプレゼンテーションの経験はなかったが、NPO法人を作り受託するまでのすべてに関わっているので、訴える力があるということで選ばれた。

18日はプレゼンテーションの準備。パワーポイントで画面を作り、あらすじを考えた。19日はパワーポイントの画面を使って、本番と同じ会場で練習を重ねた。プレゼンテーションの技術を持つ井上が全面的にコーチした。残り時間を書いた用紙をめくる役、会場に目線を配れるように隅に座って頷く役、パワーポイントの画面を操作する役など、メンバー全員が役を担い、一丸となって取り組んだ。

審査会当日(3月20日)

そして20日の審査会当日。傍聴者募集の案内は、企画運営研究会の参加者と、女性会館の認定団体にされただけだったので、傍聴者は少なかった。10時からプレゼンテーションが始まった。プレゼンテーションは、猛練習の成果で大成功だった。その後の審査員によるヒアリングは、予定時間をオーバーする数の質問があった。

その後、審査員が別室にて協議し、正午に結果が発表された。点数は明らかにはされなかったが、審査員の講評というかたちで発表された。

審査の結果、正式に見積参加者として正式に推薦されることがきまった。但し、点数は合格ギリギリの及第点。講座企画が、従来の行政の企画と違いが少ないというのが点数の低かった理由だった。民間ならではの企画が望まれたのだということが分かった。推薦されたのは、今後の期待感からの結果ということだった。会員の熱意がよく伝わり、意欲のある前向きの姿勢を買って、これから頑張してほしいというコメントをいただいた。

受託業務開始(4月1日)

3月25日に見積り合せがあり、同日引き続き契約書に押印。3月の最終週に図書コーナーの引継ぎがあり、4月1日より委託がスタートした。

(森圭代)

業務受託までの道のり

年	月	日	男女共同参画フォーラムの動き	静岡市女性会館の動き
2004	3	5		女性会館企画運営研究会呼びかけ人ミーティング
	4	21		女性会館企画運営研究会呼びかけ人ミーティング
	5	29		第1回女性会館企画運営研究会
	6	23		女性会館企画運営研究会呼びかけ人ミーティング
	6	26		第2回女性会館企画運営研究会
	7	30		第3回女性会館企画運営研究会
	8	20		女性会館企画運営研究会呼びかけ人ミーティング 第4回女性会館企画運営研究会
	9	13	静岡県NPO室の担当者にメールで質問	
	9	16	静岡市NPO推進室に相談	
	9	25	定例会で今後のことや定款等について話し合い	第5回女性会館企画運営研究会
	9	30	定款案作成(以後、メールにて意見交換を重ねた)	
	10	27	定例会で今後のことについて話し合い	
	11	2	第1回自主勉強会(講師:近藤さん、高野さん) 学校司書の松永さんほか初参加	
	11	8	静岡県NPO室で申請書類の事前チェックを受ける	
	11	16	理事の就任承諾及び宣誓の書類と住民票を集め だす	
	11	23	設立総会	
	11	29	設立認証申請書等の提出	
	12	8	第2回自主勉強会(講師:杉山佳代子さん、草谷さん)	
	12	23	NPOの実印を作る	
2005	1	25	第3回自主勉強会(講師:豊後さん、川村さん)	
	1	29		第6回女性会館企画運営研究会 女性会館より委託について具体的に説明
	2	2	第4回自主勉強会(プレゼンに提出する企画案を持ち寄った)	
	2	16	第5回自主勉強会(引き続き企画案の検討)	
	2	23	設立認証式	
	2	23	社会保険労務士を紹介してくれるよう市産学交流センターに依頼(返答なし。後、別ルートで社労士さんと契約。)	
	2	23	第6回自主勉強会(企画案の最終調整)	
	2	28	法務局で設立登記書類の事前チェックを受ける	
	3	3	法務局へ設立登記	
	3	9	設立登記完了 謄本をとり、県NPO室に設立登記の終了報告	
	3	9	第6回自主勉強会(プレゼンの提出書類等今後の程について話し合い)	
	3	11	委託の提出書類を女性会館で受取	
	3	12	説明会后、提出書類とプレゼンの練習について話し合い	女性会館の委託についての説明会(主催:女性会館)
	3	13	アイセル女性カレッジの企画案について話し合い 図書コーナーについて市職員の豊田さんに相談、話し合い	
	3	14	女性会館に、説明会の内容について質問を書面で提出	
	3	16	委託の申込書類について相談、話し合い	
	3	17	委託の申込書類を印刷、女性会館に提出(松下山松永さんが徹夜。ギリギリまで粘り、完成)	
	3	18	プレゼンテーションの練習	
	3	19	プレゼンテーションの練習	
	3	20	プレゼンテーション、ヒアリング、審査結果発表	
	4	1	受託業務開始	